

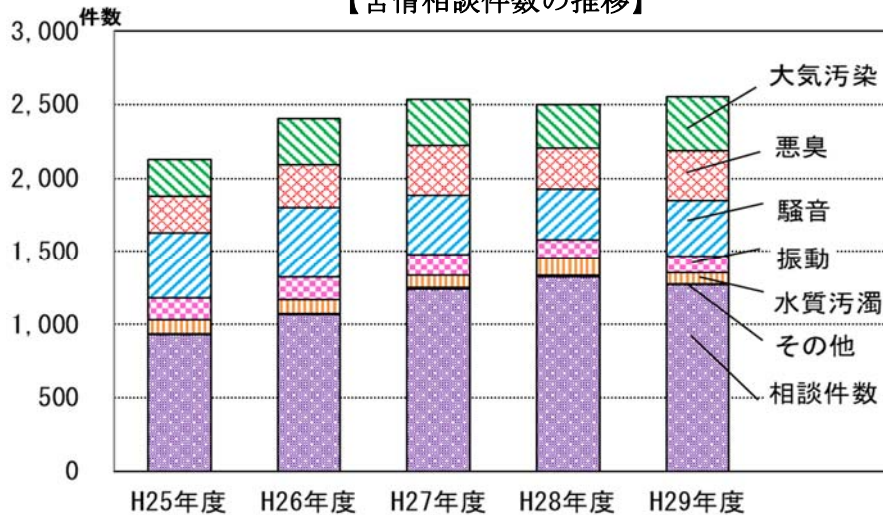
## 平成 29 年度生活環境に関する苦情相談の状況について

市内全域の大気や河川が改善していくなか、「近所で物を燃やして、その煙や臭いで困っている」「建設作業の音がうるさい」などの生活環境に関する苦情相談は依然多く、平成 29 年度は 2,556 件となりました。

本市では、音やにおいなどの生活環境の改善と快適性の向上を目的として、公害苦情相談窓口を設置し、市民の皆様からの苦情相談に対して、迅速で適切な対応を行っています。

事業所の排ガス、排水規制などにより市内全域の大気や河川が改善されてきましたが、地域ごとの公害苦情は依然多い状況です。これは、近年、工業、商業、農業を営む地域周辺が宅地化したことなどが原因と考えられます。

【苦情相談件数の推移】



	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	前年度比	
現地調査等 対応件数	大気汚染	254	312	310	293	368	+75 件
	悪臭	250	294	344	280	339	+59 件
	騒音	449	473	402	346	381	+35 件
	振動	150	160	142	127	116	-11 件
	水質汚濁	92	96	86	119	75	-44 件
	その他*	6	3	11	9	7	-2 件
小計(A)	1,201	1,338	1,295	1,174	1,286	+112 件	
相談件数(B)	931	1,067	1,241	1,324	1,270	-54 件	
苦情相談(A+B)	2,132	2,405	2,536	2,498	2,556	+58 件	

※土壌汚染、光害など

<参考URL> 「公害苦情の状況について」 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/data/kujou/>

お問合せ先			
( 大気汚染など )	環境創造局大気・音環境課長	山本 恵幸	Tel 045-671-2476
( 水質汚濁 )	環境創造局水・土壌環境課長	水上 典男	Tel 045-671-2803

裏面あり

## 苦情対応の状況

### 大気汚染 ～屋外燃焼に伴うばい煙の苦情が大気汚染苦情全体の約6割～

屋外燃焼（野焼き）に伴うばい煙の苦情が 215 件（58%）と最も多く、次いで土木作業に伴う粉じんの苦情が 98 件（27%）となり、大気汚染全体の件数は平成 28 年度と比べて約 3 割増加しました。

平成 25 年度からは、苦情の未然防止を目的として、過去に屋外燃焼行為が確認された場所を中心に巡回を行っています。屋外燃焼行為や行為跡が確認できれば、啓発チラシを用いて再発防止を呼び掛けています。



屋外燃焼の様子

内 容		H28 年度	H29 年度	構成比	
固定 発生源	ばい煙	屋外燃焼	167	215	58%
		その他	22	25	7%
		小 計	(189)	(240)	(65%)
	粉じん	土木作業	75	98	27%
		製造作業	2	2	1%
		その他	18	18	5%
小 計		(95)	(118)	(32%)	
移動 発生源	自動車の駐車時におけるアイドリング	6	8	2%	
	自動車の走行	3	2	1%	
	小 計	(9)	(10)	(3%)	
合 計		293	368	100%	

### 悪臭 ～屋外燃焼に伴う臭いの苦情が悪臭苦情全体の約6割～

屋外燃焼に伴う臭いの苦情が215件（63%）と最も多く、次いで飲食店等の調理のにおいの苦情が23件（7%）、アスファルト防水作業など土木作業現場からの臭気の苦情が9件（3%）となり、悪臭全体の件数は平成28年度と比べて約 2 割増加しました。

飲食店等のにおいについては、「隣の飲食店からのにおいが家に入ってきて困っている」といった苦情が寄せられます。問題が生じた場合は、市が事業者と相談者の調整役を務め、両者の十分な話し合いなどを通じて、円満に解決していただくことを目指しています。



塗料缶からの溶剤臭

内 容	H28 年度	H29 年度	構成比
屋外燃焼	167	215	63%
飲食店等	21	23	7%
土木作業	2	9	3%
塗装	11	6	2%
金属加工	3	4	1%
畜産・農業	5	2	1%
その他	71	80	24%
合 計	280	339	100%

## 騒音 ～最も多い苦情～

建設作業に伴う騒音の苦情が153件（40%）と最も多く、騒音全体の件数は平成28年度と比べて約1割増加しました。

建設作業は、大きな音が出るため苦情につながりやすく、また、短期間で終わってしまうことが多いため、迅速に対応しています。

さらに、特定建設作業の届出が必要な事業者にはパンフレットを配布するなどして苦情の未然防止に努めています。



内 容		H28 年度	H29 年度	構成比
固定発生源	建設作業	134	153	40%
	開放型事業場	38	30	8%
	設備機器等	30	28	7%
	音響機器	20	17	4%
	工場	14	16	4%
	その他	54	97	25%
	小 計	(290)	(341)	(90%)
移動発生源	航空機	47	31	8%
	道路交通	5	7	2%
	鉄道交通	1	1	0%
	その他	3	1	0%
	小 計	(56)	(40)	(10%)
合 計		346	381	100%

## 振動 ～建設作業が振動苦情全体の約7割～

建設作業に伴う振動の苦情が78件（67%）と最も多く、次いで道路交通振動に伴う苦情が28件（24%）となっており、振動全体の件数は平成28年度と比べて約1割減少しました。

建設作業での対策としては、騒音と同様に迅速な対応をするとともに、振動を発生させる機材を長時間連続して使用しないなど、近隣に配慮した作業をするよう指導しています。

内 容		H28 年度	H29 年度	構成比
固定発生源	建設作業	86	78	67%
	開放型事業場	13	6	5%
	工場	2	1	1%
	設備機器等	1	0	0%
	その他	4	1	1%
	小 計	(106)	(86)	(74%)
移動発生源	道路交通	20	28	24%
	鉄道交通	1	2	2%
	小 計	(21)	(30)	(26%)
合 計		127	116	100%

裏面あり

## 水質汚濁 ～河川の白濁などの着色等事故が半数以上～

河川の着色等に関する通報が45件（60％）と最も多く、水質汚濁全体の件数は平成28年度と比べて減少しました。

河川や海に塗料や油を含む廃液等が流れると、農業用水への利用や、水辺の生物に影響を与える恐れがあります。通報を受けた際には、関係部署と連携して迅速に対応し、原因調査を行います。また、市民・事業者に対し啓発チラシを配布するなど、水質事故の未然防止に努めています。



内 容	H28 年度	H29 年度	構成比
着色等	65	45	60%
油浮遊	47	25	33%
魚浮上	7	5	7%
合 計	119	75	100%